蒼葉
裾野市立深良中学校だより
平成 25 年 3 月 14 日発行
第　39　号
発行人　校長　鈴木史良

地域の未来への提言集

―― 生徒のコンピテンシーを高める取組 ――

今年度、３年生が総合的な学習の時間に取り組んできたことは、地域のことをよく調べた上での「未来への提言」でした。実際の発表は昨年１１月５日（月）に行われましたが、このほどその成果となる研究内容の概要と発表会総括を二冊子にまとめました。研究内容の概要集は、個人別に（1）研究テーマ、(2)テーマ設定理由、(3) 研究・調査方法、(4) 研究結果、(5) まとめ又は１０年後への提言、という形式で表現し、文章も生徒の手によるパソコン操作によってきれいにまとめられています。発表会総括集は手書きですが、自分が発表した後に、参観者から出された質問、意見などを自分なりに受け止め、その感想をまとめています。今号はその一部を紹介いたします。

＜発表会総括集＞より

●　研究テーマ「未来の裾野　～病院編～」　　３年Ａ組　山口　輝

１　参観者の感想

参観者は、僕がテーマにあげていた裾野市に総合病院をつくってほしいという考えが多かった。他にも裾野赤十字病院の医師不足による産婦人科の休診を再開してほしいという意見が多かった。おもしろかったのは自分が花粉症なので耳鼻科を増やしてほしいというのもあった。自分なりに医師不足に対する意見を書いてくれた人もいた。看護師については、仕事が大変そうだと思った・国家試験に受からないとなれないことを初めて知った・看護師になるのは大変なんだと知った、などの感想が多かった。逆に、総合病院をつくるのは資金に１億円、時間に１０年も費やすので無理だという意見が多かった。賛成・反対意見が両方出てきてよかったと思う。

２　発表のまとめ

今回の調べ学習はよく調べることができていたと思う。裾野市内の病院数から始まり、自分なりの考え、その考えを調べた結果まで反映することができた。しかし、多くのことを調べたことにより、一つ一つの内容が浅かったと思う。ここが課題だ。

発表の仕方は、提示物を文字だけにしないようにして見る人を疲れさせないよう工夫した。話し方は、一つ一つの単語をしっかり話し、しゃべり急がないよう努めた。

今回調べたことにより、裾野市の課題・問題を知ることができた。問題点としては医師不足で産婦人科が休診してしまっているという現状がある。市民はこれをしっかり考え、向き合っていく必要があると思う。そして改善されればいいと思う。もっと自分の市、県と向き合い、自分に何ができるか考え、これからの生活を送っていきたい。

● 研究テーマ「水を上手に使おう」　　３年Ｂ組　片桐　幸歩

私は裾野市の水の使われ方を調べました。そして得た資料をもとにまとめて発表しました。

１　参観者の感想

・いちばん水を使うのは炊事と思っていたけれど、トイレがいちばんだとわかって驚いた。
・節水をすることが未来の水を守ることになるので、節水しようと思った。
・世界では水を使いたくても使えない子供たちが大勢いるので、水を大切に使っていこうと思った。
・節水は身近な歯磨きや入浴でもできるので、できる限りのことはやろうと思った。

２　発表のまとめ

地下水が２０２２年には今の半分になることを知ったので、今のままではいけないと思い、対策等を調べました。例えば、風呂で使われるシャワーは、節水器具をつける場合とつけない場合とでは、１５リットル（６分間）もの違いがありました。さらに節水は二酸化炭素の削減にもつながるということもわかりました。節水をすると地球温暖化を少し遅らせることができることがわかったので、これからはこのデータをもとに少しずつ節水をしていき、未来の水が少しでも多く残ればいいと思いました。

世界じゅうには、きれいな水を飲めない子供もいます。水は大切なものだから、シャワー以外でも歯磨き、洗顔の時も節水を心がけることが大切だと感じました。そして未来のため、地球の子どもたちのために、自然のきれいな水を残し、暮らしやすい環境を残していきたいと思いました。『節水で世界が変わる』ということを地域に広めていこうと思いました。

コンピテンシー（使えるもの、できるものとしての生きて働く知識・技能）の育成

今学校で真に育てるべきものは単なる知識や技能ではなく、日々の経験や体験をきちんと受け止め、自ら次の課題を設定し、それに取り組む主体的な力量だと言われている。本校の「いのちの用水」学習のねらいもそこにあり、本校３年生が取り組んだ『未来への提言』はその学習の成果を見事に具体化した好例といえる。

３．１１を忘れず～全校で黙祷～

２度目の３月１１日が巡ってきました。マスコミは特集を組んでここ連日報道しています。

本校も１１日の午後２時４６分、６校時の授業中でしたが、授業を中断して全学級で１分間の黙祷を捧げました。日本人として、午後２時４６分という時刻を強く意識したかったからです。

犠牲になった方々、今も避難されている方々のことを思い、また防災に関しても意識を強くもち続けていきたいです。

黙祷を捧げる英語少人数クラス